

連載

28

在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (63歳・内科)

自然の教え (米作における中干し)



7年ほど前、夏の暑い盛りのころ私は、脳梗塞後遺症患者さんの訪問治療に行いに、松山市北部の田園地域へ行っていました。

患者さん宅の周辺の田んぼには一面稲が穂を出していました。しかしよく見ると、水がなみなみと漂っている田んぼと、水が全く無くひび割れが見られる田んぼがあったのです。

そこで私は、秘書(介護福祉士・26歳・男性)に講釈することになりました。

「私の祖父はね。お米と果物を作る農家だったんだよ。子どものころには3回ほど田植えの手伝いをしたかなあ。あの時も今日みたいな真夏で、雨が降らないものだから田んぼがひび割れ

ていてね。祖父が一生懸命頑張って井戸から水をひいていたのを思い出すよ。このひび割れた田んぼも残念ながら水が不足しているんだろうね」

私が得意満面にそう言うと、元々農家出身の秘書は、「これは中干しといって、収穫前に一度、ひびが入るまで田んぼの水を抜いて乾かすんです。そうすると稲は水を求めて根を強く張るので、その後水を入れてやるとすくすくと育つんですよ」と、教えてくれたのです。

まるで、人生哲学を学ぶようではありませんか。その時、私は今までの学問は何だったのだ

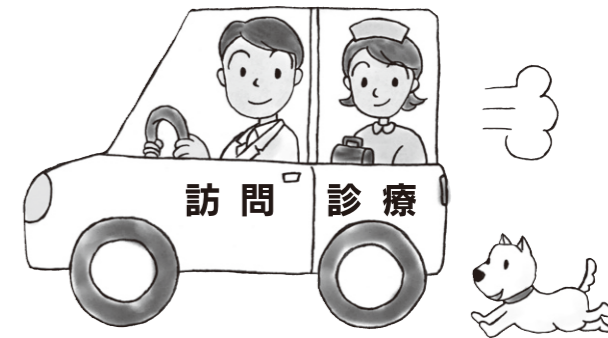
ろうとショックを受けながらも反省をしました。そして、人間の能力と自然の営みの素晴らしさに驚嘆したのです。

私の座右の銘は「身土不二」なのですが、自然界の営みは知恵の宝庫だと思います。「人生は苦勞という名の種を撒いてこそ大器晩成」と。また「山川草木国土悉皆仏性」など、すべてに生命が宿しているとも言われています。

混沌とした現代には、思想、哲学、宗教、生命科学を超える何かが必要です。それは自然界から学ぶ「生命論パラダイム」の時代であるのでしょうか。

「お医者さんが来てくれる」

質の高い在宅医療・看護・介護を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>